

「多様な学びを広げる宝探しに出かけよう！」

宝（ひと・もの・こと）との連携が学びの協働体制を生み出す

連携が学びの協働体制を生み出すとは？

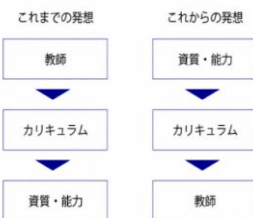
なぜ連携が必要なの？

どのように連携していけば？

「社会に開かれた教育課程」がポイント

少子化高齢化や地域とのつながりの減少などを背景に、学校が抱える課題が複雑化・多様化しています。そのような中、学校だけではなく、社会全体で子どもたちの育ちを支えることが求められています。「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という理念を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、子どもたちに新しい時代に求められている資質・能力を育んでいくことが、「社会に開かれた教育課程」に期待されています。

「社会に開かれた教育課程」のメリット



子どもたちは様々な経験を通して、資質・能力を獲得していきます。良質の教育実践を提供していくために、学校内、外部資源と連携・協働することを前提とした教育課程＝社会に開かれた教育課程を作ります。

このような取組が、外部資源と連携・協働するからこそ実現できる成果につながってきます。

社会全体で子どもの育ちを支えるため

社会とのつながりの中で子どもたちが学ぶことで、子どもたちは、自分の力で人生や社会をよりよくできるという実感をもつことができます。



このことは、変化の激しい社会において子どもたちが困難を乗り越える未来への希望や力となり、そのために社会と連携・協働の充実がカギとなります。

お互いの目標を話し合うことが大切

「こんな子どもを育てたい」など、お互いの目標を確認することで、**前向きな姿勢**で取り組むことができます。

それぞれが襟を開き、子どもの状況や課題について話し合った上で、教育活動に取り組んでいくこと、これが**連携・協働**につながり、**多様な学び**につながってきます。



まずは地域に出かけてみよう！

地域の公民館、まちづくりセンターには、地域の宝（人材、もの、こと）に関する情報がたくさんあります。地域にどんな宝があるのかをまず知るところから、連携・協働が始まっていくかもしれません。

まず、地域に出かけてみるという気持ちで動き出してみてもどうでしょうか。



連携・協働からの計画作成がポイント

これまで、学校や教師の現状から「できそうな取り組み」を作成していたかもしれませんが、今後は、目標となる「資質・能力」を設定し、地域資源と連携・協働を想定しながらこれまでの教育計画を見直したり、改善したりすることで個別最適な学び・協働的な学びにつながるのではないのでしょうか。



参考資料

学習指導の基本を身に付けよう授業づくりQ&A～『よい授業』を目指して～
平成23年3月 島根県教育センター浜田教育センター

詳しく知りたい方は



個別最適な学びとの関連

「何のために学ぶのか」「学ぶことでどんな力が付くのか」ねらいをはっきりさせることで、子どもたちの学ぶ意欲につながります。また、児童が自分の「学び」がねらいとずれてはいないか立ち返る指針となり、学びの調整につながります。